

# 難関校受験のポイント



## Q. 公立高校の入試状況は？

A. 千葉県は伝統的に公立優位です。もちろん私立高校が第一志望の受験生もいますが、公立志望の受験生が圧倒的に多い状況が続いており、難関公立高校の入試は高倍率の激戦です。

最難関である千葉高の昨年度入試を振り返ってみると、後期選抜受験者が 342 名で合格者が 178 名でしたから、164 名もの受験生が残念ながら不合格となり私立高校に進学したことになります。公立難関校は右表の通りどの学校も高倍率です。

### ●2015 年度選抜 主要校入試倍率

	前期選抜	後期選抜
千葉	2.76	1.92
船橋	3.23	2.1
千葉東	2.84	1.92
佐倉	2.54	1.85
市立千葉	2.57	1.71
長生	2.24	1.61

## Q. 私立高校の入試状況は？

A. 2 極化の状態が続いています。県内私立高校のうち、進学研究会の合格 60%偏差値が 60 以上の学校は\*13 校あります。どの学校も上位生しかチャレンジできない難関校ですが、総武京葉エリアの渋谷幕張・市川・東邦大東邦・昭和秀英の 4 校が最難関で、次いで常磐エリアの芝浦工大柏・専修大松戸の 2 校が難関です。定員比率の大きい前期日程でみると、この 6 校はすべて実質倍率が 2 倍を超える激戦ですが、その他の学校は 1.0~1.7 倍程度で、中学校の通知表成績だけで合格が決まってしまう入試もあります。偏差値 60 をこえる上位校の中でもさらに 2 極化している状況なのです。

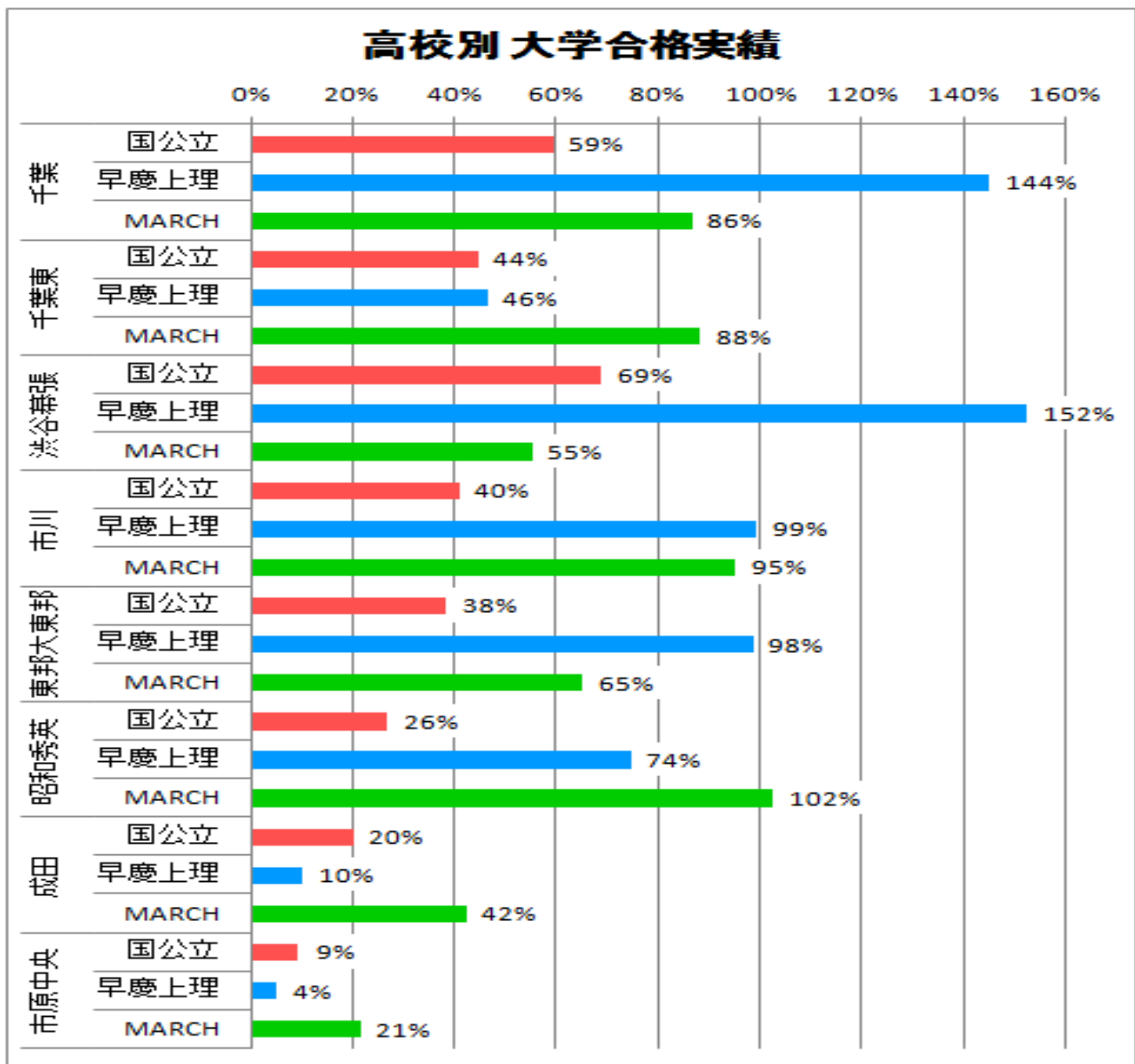
\*渋谷幕張 71, 市川 69, 東邦大東邦 67, 昭和秀英 66, 芝浦工大柏 65, 専修大松戸 64, 日大習志野 63, 市原中央(Ⅰ類)63, 八千代松陰(IGS)63, 成田(特進)62, 麗澤(特進)62, 国府台女子(特進)61, 流通経済大付(3 類)61

## Q. トップ校を目指すには？

A. 県立千葉高を目指すには、公立入試の前に行われる私立入試において、おさえとなる次善校に合格できるかどうか重要です。千葉高はやはり上位生のあこがれですから多くの受験生が集まります。昨年も前期 2.76 倍、後期 1.92 倍という高倍率でしたが、一昨年はさらに倍率が高く、前期 3.56 倍、後期 2.62 倍でした。このような厳しい状況を考えると、よい次善校に合格することが挑戦権だと考えています。

## Q. トップ校のおさえとは？

A. 千葉高について言えば、渋谷幕張・市川・東邦大東邦・昭和秀英の最難関私立 4 校のいずれかに合格することが挑戦権と言ってよいでしょう。この 4 校を受験する生徒の多くは、私立第一志望もしくは千葉高志望者ですから、自分の実力をはかる試金石としての意味があります。仮に最難関 4 校に合格できなかったとすれば、それは残念ながら千葉高の厳しい入試を突破するだけの力がついていなかったと考えるべきでしょう。また、もし千葉高に合格できなかった場合にどこで 3 年間を過ごすかと考えると、優秀な受験生が多く入学している難関私立 4 校のいずれかがふさわしいと思います。進学研究会の合格 80%偏差値は、渋谷幕張 76、市川 73、東邦大東邦 72、昭和秀英 70 となっています（千葉高は 73）。1 学区 2 番手の千葉東高 69 を上回る私立高校は他にありません。3 年間過ごした後の大学受験における各校の実績を比べてみても、他の私立高校とは大きな開きがあるのが現状で（下表）、この 4 校が次善校としてベストでしょう。



## Q. 誉田進学塾では？

A. 昨年、後期選抜で千葉高を受験した塾生は 19 名いましたが、そのうち 18 名は難関私立 4 校をおさえていました（渋谷幕張 2 名・市川 2 名・東邦大東邦 9 名・昭和秀英 5 名）。倍率 2 倍ということは、受験生の半分以上が不合格になってしまうということです。指導してきた生徒たち全員が合格して欲しいと願い力を注いでいるのはもちろんですが、高校入試は決してゴールではありません。残念な結果だったときのことから目をそらさず、次の 3 年間を大切に考えるべきです。私たちは、将来につながる進路選びに寄り添う決意をしていますし、そのために必要な学習のすべてをサポートします。

## Q. 公立入試と私立入試で求められるのは？

A. 公立高校の入試問題は易しめで、中学校の定期試験のような難易度だと思われがちですが、それは正しいとは言えません。定期試験は時期ごとに学習の定着度を測るためのもので、習ったことができるようになっていけば高得点をとることができます。それに対し公立高校の入試問題は、習ったことを単に再現できるかどうかではなく、活用できるかが問われるようになってきました。以前は 300 点を超えるほどだった全県平均点が近年は 250 点前後に留まっているのは、より本質的な学力が求められるよう難化しているからなのです。そして難関私立入試は、そもそも難しさの質が異なります。難関私立 4 校の入試では、教科書レベルの問題が出題されることはほとんどなく、学校の定期試験に合わせた勉強だけで対応するのは不可能です。実際、定期試験の成績と難関私立の合否は一致しませんし、学校の定期試験は 1 位なのに難関私立を突破できないという話もよく聞きます。

## Q. 誉田進学塾の指導は？

A. 学校の定期試験にだけ照準を合わせて目先の点数を求めるようなことはせず、常に本質的な学力を追求しています。難関私立や公立トップ校に合格するには、受験生になってからではなく、中 1・中 2 の段階から発展的な問題にチャレンジしていかなければならないからです。そして、高校入学後のことも考えるべきだと思います。たとえば、公立志望だからといって、そのレベルの問題に絞って勉強してしまうと、入学後に困ることになるのではないのでしょうか。トップ校に入学してくるのは、難問対策で応用力を身につけてきた生徒ばかりです。入学後に切磋琢磨しさらに成長するためには、そこで学ぶにふさわしい学力を身につけることを考えるべきです。先ほどもお話しした通り、高校受験はゴールではなく 1 つの通過点です。本当に大切なのはその先だと考えれば、ただ合格できればよいというような対策ではいけないのは明らかではないのでしょうか。先を見据えた学習をした上で結果を出そうとお考えならば、誉田進学塾にお任せください。